

学法石川高校野球部 第96回選抜高校野球大会に33年ぶり出場!



憧れの舞台へ FROM NOW ON

さあ、これからだ!

決定から約1か月。「聖地での勝利」をめざして!

第96回選抜高校野球大会(センバツ)の選考結果の発表が行われた1月26日。午後3時半過ぎに、東北地区の第3校目として「学校法人石川高校」の名が読み上げられると、69名の野球部員がいつせいに歓声を上げ跳びあがって肩を抱き合い、保護者やOBの喜びの拍手が講堂に響きわたりました。学法石川高校野球部の甲子園出場は1999年夏以来の25年ぶり、センバツ出場は1991年以来33年ぶり4回目。待ちわびた吉報に町じゅうが盛り上がるなか、チームはいま聖地での勝利をめざし、トレーニングを重ねています。

本気になれば 世界は変わる! 全員で総力で手にした甲子園

第96回センバツの出場校は32校。うち一般選考枠29校に選ばれた学法石川は、昨年の東北大会で宮城や秋田の第一代表を破って、準決勝に進出したことなどが評価されました。

「センバツ出場への手ごたえはあった」と振り返る佐々木順一朗監督。しかし、いまは選ばれたことに対する「ほっ」とした気持ちや嬉しさを超えて、日に日に「ちゃんと戦わなきゃいけないぞ」という責任感が膨らんでいるといいます。

「昨年の夏は、あと一歩のところまで押し返された。野球の神様に『まだ甲子園には行っちゃだめだ』といわれたような気がしました。裏を返せば、相手校よりも『本当に勝つ覚悟』が弱



持てる力を精一杯発揮して 笑顔と元気を届けます!

佐々木順一朗 監督

4年前、水害ボランティアで訪ねたお家で「これは大切なものだから」と伝えられた箱の中に、かつて甲子園に進んだ学法野球部の新聞記事のキリヌキがありました。センバツが決まった瞬間、あの時に「早くあなたたちも行きなさいよ」と励まされたことを思い出しました。甲子園に対する町の思いはそれだけ強い! 期待に応えられるよう、いま持てる力を精一杯発揮したプレーで、町に元気と笑顔を届けられる試合をしてきます!



福島民友2024年1月27日付

かつたんだと思う。これは部員たちも同じ気持ちだったでしょう。」

本選に向けて汗を流す部員たちを見守りながら、「でも、だからこそ」と、佐々木監督は続けます。「みんなが本気になった。チームの総力が上がって、秋季大会の一試合一試合に良い形で表れたんです。選手たちの本気と人としての成長を、選考委員会で見て頂けたことがセンバツ出場につながったのだと思います。」

おごらず怖がらず、感謝と勇気を持って、いまの自分を超えていこう!



就任以来、部員の主体性を大切にしていた佐々木監督。「髪は伸ばしていいよ」「やりたいことはやってみていいよ」などの指導に惹かれ、入部する者は多く、そのことが明るく自由で勢いのあるチームの雰囲気を作っています。この日も約3時間の練習中、大声で励まし合い、笑顔でメニューをこなす部員たちの姿がありました。

とはいえ、自由と責任は表裏一体。思うままのふるまいがカッコいいと勘違いしがちの年代でもあるため、全国大会では「自分の役割を責任を持ってやり切る強さを持つてくるか」とかが、チームの戦いぶりを左右する」といいます。

「あの時は良かった! すごく良かった! という試合をしたチームには、目立った活躍をした選手だけではない隠れたスパーヒーローが必ずいます。秋の東北大会のこのチームもまさにそうでした。技術や戦略はもちろん大事だけど、最後は一人一人の人間力とチーム力。みんなには選ばれたことにおごらず、初めての全国だからと怖がらず、先輩や保護者、町の皆さんに感謝の気持ちを忘れずに勇気を持って戦ってこよう! と伝えています」と佐々木監督。第96回センバツ大会は、3月8日の組合せ抽選会を経て、いよいよ3月18日に開幕します!

- *1 23年夏の福島大会決勝戦。聖光学院とのタイブレーク延長10回表で4点を奪うも、裏でまさかの逆転サヨナラ負け。チームは「Believe〜どこまでも挑戦者〜」のスローガンを掲げ秋に挑んだ。
- *2 秋季大会では、ケガをしたキャッチャー飯島に代わり、控えの渡辺莉央が出場。学生寮の寮長であり、何ことでも進んでやる率先力でチームの連携を一層高めた。



▲佐藤翼投手



▲大柴利哉捕手



▲大友瑠投手



小宅善叶キャプテン(2年)

勝って恩返しすることが一番の目標です!

発表から1か月、チームに「甲子園で勝つためには、いまのままじゃいけない」という雰囲気がかんかん高まってきました! 開幕に向けて、この良い雰囲気をキープし、さらに上を目指せるように持っていきたいと思います。OBの方々や応援してくれる地域の皆さんのためにも、必ず勝って恩返しします!

甲子園でたくさん暴れて思い出に残る試合に!



マネージャー 栗林南帆さん(2年) 橋本千咲希さん(1年)

このチーム初の甲子園。まだ実感はわきませんが、出場が決まった瞬間はすごく嬉しかったです! 「必ず一勝しよう!」というのがチームのいまの目標。マネージャーとして、みんなが思い切り楽しんでプレーできるようしっかりサポートし、皆さんの思い出に残る大会にします!!

学校法人石川高等学校
〒963-7853 石川郡石川町字大室502
■学校創立1892年 ■野球部創部1922年(創部102年)
■全校生徒数:869人(女子287人) ■野球部員数:69人

1回戦	8-5 盛岡中央(岩手第三代表)	春のセンバツでは前回の1991年に初勝利。通算では3回出場して1勝3敗(最高は2回戦まで)夏の甲子園は通算9回出場し、3勝9敗(最高は3回戦進出)。
2回戦	2-1 聖和学園(宮城第一代表)	
準々決勝	3-1 金足農(秋田第一代表)	
準決勝	0-1 八戸学院光星(青森第二代表)	